

週日の説教

金 大烈 神父 2010年9月1日(水)

《靈魂の救いのために動きましょう》

主の平和

今日の福音(ルカ4・38-44)を読んで皆様はどんな事を思いましたか。私が今日の内容で気がついた事は、イエス様の一日の姿です。

先ず会堂で教え、次にシモンの姑の家に行きます。熱に苦しんでいた姑を癒して、その後、日が暮れると色々な病気にかかっている人々を癒します。それが終わったら何をしていたのでしょうか。『朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。』とありますので、朝になる時まで癒しを行っていたこととなります。朝になって別の所に行こうとしているイエス様を、周りの人々は行かないように引き止めようとしました。しかし、イエス様は「私は、ほかの村にも町にも福音を告げるために行かなくてはならない。」と言いそこを離れたと書いてあります。ということは、イエス様は食事をする時ぐらいしか休まなかったのでしょうかね。

いつ休息をとられたのでしょうか。一日中、24時間殆ど休む暇もなく、本当に忙しい生き方を見せてくださった姿がそこにあります。

さあ、皆様にちょっと質問をさし上げます。今まで皆様が歩いて来た、過ごしてきた、過ぎてしまったその人生は忙しかったのでしょうか、それとも余裕満々の日々だったのでしょうか。どちらでしょう。本当に忙しかったのでしょうか。「まあ率直に言えば、忙しかった時もあるし全然そうじゃなかった時もある」と言えるのでしょうか。しかし、私が申し上げようとしている事は、忙しかったか、そうじゃなかったかの問題ではありません。忙しかった時はなんのために忙しかったのですか。お金を稼ぐ為に？ 丈夫な体を作るために？ 隣人と関わるために？ 色々理由があったと思います。では忙しくなかったという人は、どうして忙しくなかったのでしょうか。仕事をしなくてもよく、お金を儲けてくれる主人がいたので？ 子供がいないから？ 何の望みもなかったから祈る気持ちにもなれなかったから？

今日の福音を読んで私も反省しましたが、もう過ぎてしまった事は気にしないで下さい。忙しかった人も忙しくなかった人もこれからのことが一番大事な事だと思います。そして、私達は忙しい生き方をして、その目的がはっきりしなくてはなりません。それは何よりも、自分の靈魂のために急いで取り組んでほしいのです。自分の靈魂の救いのためにどのくらいの時間が残されているか解らないのですが、それぞれに与えられている時間を「靈魂の救いのために使わなければならない」と、そう思います。

イエス様は33年間、特に最後の3年間は人々のために本当に命を懸けて動かされたのです。今日の読まれた福音の内容のように、「本当に忙しかった」と言うよりは「大忙しかった」。そして、この言

葉どおりの生き方を私達に見せて下さいました。私自身も、後悔する事とか過ぎてしまった事は全部捨てて、「これからまた新たな気持で立ち上がらなくてはならない」と、そういう気持になりました。皆様にも賛同して頂き、このような気持でなんとか一緒に動こうとする心が強く生じてほしいのです。

まもなく求道者の勉強会が始まります。私、皆様に宿題をさし上げましたね。一年前に愚かな司祭が脅迫ではない脅迫をしたこと覚えておりますか(笑い)。休んでいる信者とか、全くイエス様を知らない人に、私達一人一人が、一人の人に どうにか手を伸ばして教会につれてきましょうと脅迫でない脅迫をしました。私達が自分に与えられた一つの使命として「誰かのため、その人が必ず神様に会うように祈り求めますのでイエス様どうか力をかけて下さい。」と、そういう気持でよくやって来たと思います。

今、うわさによりますと求道者が250人ほど申し込んだそうです(笑い)。本当にうれしいです(笑い)。……このような冗談で話しをするのではなく、「今年はね、250人が求道者のクラスに入ったみたいですよ。」と平気に言える時が来たら、どのくらい幸せになるかと考えてみました。(笑い)

さあ、これから皆様、急がなければならない事のひとは怒るために、腹を立てるために、妬むために、憎むために急ぐ必要はありません。その反対の事のために急いで下さい。靈魂の救いのためにご一緒に動きましょう。

ありがとうございました。